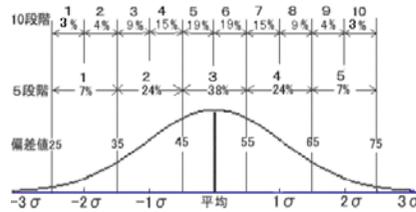


(例)心理学専攻の学生がもっている記憶の意味ネットワーク

学力検査

質問紙

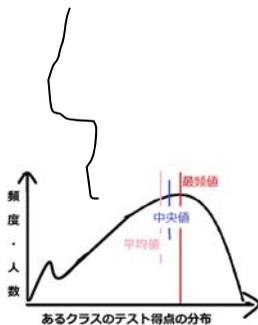


意味ネットワークの個々の構成要素はリンクの数や太さによって再生率が決定される

平均値

標準偏差

因子分析



$$SD = \sqrt{\frac{\sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})^2}{n}}$$

証明

どういふときに**類推的な説明**
が必要か？

積み重ねvs応用

- 結論：基礎、基本をマスターし、次に、内容を理解し、最後に実用例を学ぶという**順序性**に拘る必要はない
- **応用から入る**ようなカリキュラムも検討すべき
 - 後になって必ず役に立つから...という説明が、どこまで説得力を持つのか？**いつまで待たされるのか？**
 - 数学や理科などでは、中身の説明をするために**必要とされる道具立て**が不十分なのに関わらず、実用例が説明されることがある。
 - カリキュラムの構成上、**中身の本格的な理解は後回し**にされることが多い(三角形の内角の和、てこの原理、分詞の形容詞的用法など “How can you help the country **develop**?”が出てきた後に、“How can **developed** countries help **developing** countries?” という文章が出てくるなど)。